

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和6年度
意見交換会(第2回)

福島県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2024年10月9日

● 第1回意見交換会からの調整状況報告

◆第1回意見交換会でいただいた意見を踏まえ、企画内容の調整を実施。

実践の場

<ご意見>

- ・過去2年間に参加した学生参加者も20数名に拡大し、東京や全国の学生への広がりが出てきたため過去2年分の積み重ねの反映が必要。
- ・昨年から参加された学生たち、全国の学生にも参加できる形式にするのがよい。
- ・昨年までの取り組みは、若い世代に福島の課題や魅力を伝えることが重要とされ、学生たちが参加するだけでなく、地域の方とコミュニケーション取る機会を作ることが重要だと考える。
- ・昨年の実践の場では、運営委員会方式を採用し、運営委員会がコンセプトを固め、多数のアイデアを検討し、学生の参加が活性化し、自ら企画を立案する気持ちが育まれた点が良かった



◆計画推進体制の見直し ■ ■ ■ ●運営委員会の発足による推進

- ・これまでの取り組みを活かし、「ふるさと愛プロジェクト」を継続して実施することで、施策を磨き上げ、参加者と福島の関係性を更に深める
- ・昨年、一昨年の参加者学生、運営委員会学生に声掛けを行い、今年度の運営委員会（全5回）を発足させ、同委員会において今年度の企画案について検討をすすめる。

招待状作成ワークショップ

◆これまでの取組を反映した招待状 ■ ■ ■ ●運営委員会による作成

- ・前年度までの取組を活かした招待状を作成するため、第1回運営委員会にて、運営委員会で作成することを決定。運営委員会の進行に合わせて、招待状作成を進めていく。

● 運営委員会について

【運営委員会メンバー】

昨年までの参加者から7名の学生、副代表団体から2名のアドバイザーを迎えたメンバーで編成。

＜令和6年度 運営委員会メンバー＞		R5運営委員会	R5参加者
1	東京大学 学生	●	●
2	東京大学 学生	●	●
3	岡山大学 学生		●
4	長崎大学 学生	●	
5	福島大学 学生		●
6	福島大学 学生		●
7	福島工業高等専門学校 学生	●	●

＜令和6年度 運営委員会アドバイザー＞		氏名
1	ふくしま連携復興センター 代表理事	天野 和彦
2	福島大学 地域未来デザインセンター 特任准教授	藤室 玲治

【運営委員会開催状況】

第2回までの運営委員会において、今年度の企画内容について議論を実施

実施回	開催日時	議題・内容
第1回 運営委員会	8月29（木） 17:00-18:40	<ul style="list-style-type: none">■ 参加者自己紹介/昨年の振り返り/今年度取組「実践の場」「招待状WS」説明■ 「実践の場」「招待状WS」についてブレインストーミングと意見交換<ul style="list-style-type: none">○ プログラムで体験したいこと、体験させたいこと○ アウトプットは何を誰に届けたいか■ 第2回に向けたチーム別ミーティングの設定（全体構成・アウトプット）
チームA ミーティング	9月18（水） 19:30-20:10	<ul style="list-style-type: none">■ 「実践の場」の構成イメージ○ 第2回で話し合う全体構成、アウトプットについて議論
チームB ミーティング	9月17（火） 18:00-19:30	<ul style="list-style-type: none">■ 「実践の場」の構成イメージ○ 第2回で話し合う全体構成、アウトプットについて議論
第2回 運営委員会	9月20（金） 19:00-21:00	<ul style="list-style-type: none">■ 両チームで議論された内容を発表し、全体で議論（全体構成・アウトプット）○ プログラム内容・日程別スケジュール・訪問場所・アウトプット・参加対象者について議論<第3回までのアイデア提出>実践の場：参加対象者設定・体験させたい場所や人・イベント名称 /招待状WS：構成イメージ・掲載したい場所・写真・メッセージ・サブタイトル

● 運営委員会での議論状況

第2回運営委員会では、2グループのアイデアをもとに、プログラム内容とアウトプットのアイデアについて議論

	Aグループ	Bグループ
実施したいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・浜通りには、震災後に戻ってきた方が多く、以前からその地域に住んでいる方へ訪問し交流する ・訪問先などでインスタントカメラで記録し、アウトプットに活用するのがよい。 ・トークフォーカンスをやり方を変えて実施するはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者ではなく、以前からその地域に住んでいる方を話しが良い。 ・旅行や移住の面でも、福島に興味を持つもらう方を増やすことを目標としたい。 ・インスタグラムを活用した発信をアウトプットとするのも良い。
具体的な検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・<トークフォーカンス実施における改善・変更点> ・会場全体でトークが進行するため、相手方の声が聞こえ辛くなる。1名に対して、リレートーク方式を検討するはどうか。 ・リレートークに参加いただく地域の方の情報を事前共有しておき、当日実際に有って話を聞けるほうが理解度が高まる。 ・トークフォーカンスをワールドカフェ方式で実施してはどうか。(参加者を軸に、学生が回遊する形式) 	<ul style="list-style-type: none"> ・<インスタグラム展開における検討> ・イベントタイトル案「インスタで発信しよう福島のふるさと愛」 ・簡単な映像なども投稿でき、学生たちが直ぐに発信できるのが良い。校閲面でも、インスタグラムであれば文面の修正が可能。 ・グルメや観光に特化してしまうと、それ以外が紹介しづらくなるので、あくまでもふるさと愛をベースに、多面的に紹介できる。 ・訪問対象によってグループ分けして活動するのも良い（伝統文化・食文化など）
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションは、アウトプットとしての展開を再考する必要はあるが、参加者にとっては、体験を整理するのに有効的なため実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広く様々な人へ広げたいため、インスタグラムを活用した展開をするはどうか。活動で感じた事を各自で表現することができる。
実施スケジュールイメージ	<ul style="list-style-type: none"> <1日目> AM : 集合・移動 PM : Jヴィレッジで地域の方との交流 (TFDなど) <2日目> AM/PM : 1日目に交流した方へ訪問 <3日目> AM : アウトプット作業 PM : アウトプット発表 	<ul style="list-style-type: none"> <1日目> AM : 集合 (移動バス内で参加者の自己紹介や交流) PM : 全員で訪問・体験 <2日目> AM/PM : グループで訪問・体験 (随時インスタグラムへ投稿) <3日目> AM : グループで訪問・体験 (随時インスタグラムへ投稿) PM : 投稿内容と工夫点の発表



- アウトプット：ポスターセッションによる発表とインスタグラム発信を併用した展開を検討・調整する。
- 実施内容：参加者に体験させたい・会わせたい人を第3回までに運営委員会で検討する（アイデア提出）
- その他、参加者の設定と集め方、イベントの名称、10月から始める招待状作成に対しても第3回までにアイデアを提出

● 運営委員会での議論状況

<調整の整理>

	第1回意見交換会からの調整	運営委員会での決定事項・決定方針
実践の場	<p><企画内容> 昨年までの参加学生を軸に、運営委員会を発足し、運営委員会にて企画内容を検討し決定する。</p> <p><運営委員会の構成> 昨年の実践の場に参加した学生7名、アドバイザー2名の9名体制。</p>	<p><開催日程> ●2025年2月17日（月）～2月19日（水） ※運営委員会参加者のテスト期間終了後に設定</p> <p><会場> ●Jヴィレッジ ※Jヴィレッジを活動拠点として、プログラムの実施、各訪問の組み立てを行う。</p> <p><当日の参加者> ●運営委員会学生によるチラシ配布、声掛けにより、運営委員会学生の「ふくしま愛」に共鳴する学友、知人を対象に募集を行う ※具体的な募集方法は、第3回運営委員会にて決定させる</p>
招待状 ワークショッ プ	<p><取組の方向性> 観光が一面に出るだけでは無く、これまでの「ふるさと愛プロジェクト」の取組を反映した内容の招待状を作成する。</p> <p><参加者の設定> 昨年までの実践の場に参加した方に、「ふるさと愛プロジェクト」を表現した招待状を作成いただく。</p>	<p><参加者の設定> ●運営委員会内の取り組みとして作成 ※運営委員会の進行に合わせて、招待状作成を進める</p>

● 今後の運営委員会の進め方

今後の運営委員会で、決定する必要がある項目は下記内容とし、運営委員会内で共有を行った。

第3回 運営委員会 (10月下旬予定) 10月23~25日にて 調整中

<実践の場>
・希望する訪問先の決定（以降、事務局により調整連絡を実施）
・訪問方法の検討（チーム分け・ルート設定など）
・参加対象者の決定（事務局がチラシデータを作成、第4回運営委員会にてデータを共有）
・チラシの送付（運営委員会学生による学内配布を予定※11月下旬までには納品見込み）
<招待状作成ワークショップ>
・テーマや掲載内容の方向性を決定（※委員会実施前に各自よりアイデアを提出）
・構成案（場所・人物など）決定
・ページ構成担当決め（第4回までに担当が掲出内容に沿った使用画像イメージ・メッセージ案を検討）

第4回 運営委員会 (11月下旬想定)

<実践の場>
・訪問先の決定（事務局による調整連絡後の状況共有のうえで決定）
<招待状作成ワークショップ>
・ページ構成に関して担当者からの提案を委員会内で確認・検討
・構成決定（以降、事務局により写真素材手配・入稿データ作成）

第5回 運営委員会 (12月中旬想定)

<実践の場>
・プログラム最終調整（第4回以降に調整が必要となった場合）
・プログラム最終決定
・集合・宿泊等、当日プログラム以外について共有（事務局にて最終調整後、参加者に個別連絡）
<招待状作成ワークショップ>
・最終データを運営委員会に事務局より提出、確認

● 調整後の取組内容

◆招待状作成ワークショップ【運営委員会で作成】

<主な進行スケジュール>

- ・ 第3回運営委員会（10月）：候補地の洗い出し・紹介企業や人物のイメージ設定・担当分け
- ・ 第4回運営委員会（11月下旬）：候補地・企業・人物の決定・文字構成案・ページネーション構成
- ・ 第5回運営委員会（12月中旬）：文字校正・最終調整（不足情報は別途取材想定）

※運営委員会での最終構成完了の期日は12月20日の想定

 以降、事務局による最終調整

<事務局による作業>

- ・ 2025年1月：入稿データ調整・翻訳・イベント用パネルデータ作成
- ・ 2025年2月：入稿データ最終調整・翻訳版入稿データ作成
- ・ 2025年3月：日本語版・英語版 PDF版、冊子版納品



<大阪・関西万博 会場での活用>

2025年5月19日～24日 復興庁の出展期間中に会場で配布など

※活用の手法に関しては、現在検討中のため、追って情報共有させていただきます。

◆招待状作成ワークショップ【大阪・関西万博 復興ポータルサイトとの連携】

【WS開催状況の報告掲載】 ワークショップ開催の様子を掲載します。（取材等ではなく、現地で写真を撮影して紹介します）

【ネット投票の実施】 リアルでの投票に合わせて、ポータルサイト内でも人気投票を実施します。

【完成データの公表】 完成した招待状の冊子を専用ページで公表し、閲覧・ダウンロードできるようにします。

【万博会場での活用】 完成した冊子やデータを復興庁出展期間（2025年5月19日～24日）で活用します。

※活用の手法に関しては、現在検討中のため、追って情報共有させていただきます。

＜実施検討中の内容＞

【100日前イベントへの参加者の登壇】復興庁出展の100日前前後に、福島、宮城、岩手の3県でイベントを実施予定です。

※イベントステージにて、参加者に登壇、招待状の紹介を調整中です。

<議題①>

実践の場・招待状作成ワークショップ修正内容について

副代表団体のみなさまから、今年度の取組に関するご意見ご要望を
お聞かせいただければと思います。

<議題②>

来年度の「実践の場」取り組みの進め方について

- 来年度の「実践の場」内容について
(運営委員会の発足是非、メンバー構成・実践の場の参加者の集め方など)
- 全体のスケジュール感について
- 副代表団体と事務局との連携について
- その他ご意見